

別紙

飛騨農林事務所の普及活動状況 令和4年2月28日現在

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■担い手 青年農業士夜間勉強会の開催

2月21日に岐阜県青年農業士連絡協議会飛騨支部主催による「夜間勉強会」が高山市で開催され、青年農業士、新規就農者等14人が出席した。講師にJA全農岐阜飛騨地域駐在の担当者を講師に迎え、「青果物の流通と関係機関の役割について」と題して、「販売方法」や「相場の決まり方」「JA出荷の利点」などお話しいただき、出席者は熱心に聴講した。



【夜間勉強会風景】

夜間勉強会後には、「販売、流通についてよく分かった」「JA販売の安定感が非常によく伝わった」「生産者が農業に専念できるようJA全農は色々な努力をいただいていることがわかった」と言った意見が聞かれ、参加者の満足度の高い勉強会となった。

今回の意見を参考に、農業に深く踏み込んだテーマだけでなく、幅広く応用できるテーマの研修会など、青年農業士の活動が若手農業者の経営の安定、発展の一助になるよう今後も活動を支援していく。

(園芸産地支援係 田口雄大)

■担い手 高山市青年等就農計画審査会

高山市は、2月8日に令和4年4月トマトで就農予定の長期研修生2名に対して青年等就農計画審査会を開催し、農林事務所は審査員として出席した。

研修生2名は、指導農家や支援機関（農畜産公社、市、JA、農林事務所）と連携して作成した就農計画を説明するとともに、間近に迫った就農への決意を語った。両者は、指導農家での実践的な研修においても、日頃から積極的に取り組み、栽培技術の習得も順調である。農畜産公社など関係者からは、単収10トン以上の成績を残してほしいと激励の言葉も贈られた。



【就農計画を説明する長期研修生（中央）】

農業普及課では、新規就農者が就農後、計画に基づき早期に栽培技術・経営管理能力を習得できるように継続して支援を行っていく。

(地域支援第二係 田口裕允)

■新規就農 飛騨市の新規就農者と面談を行い成果と課題を把握・助言

飛騨市は2月22日に過去5年間に就農した農業次世代人材投資事業の給付対象者10経営体に対して「JA、アグリチャレンジセンター、農林事務所」関係機関とともに面談を実施した。

面談では、R3年度の成果とR4年度の計画について就農者から説明があり、本人の努力が実り当初の計画以上に単収を伸ばした就農者が多数であった。一方、単収が低迷した2経営体については課題を明確化させながら適切な助言を行った。

農業普及課では、今後も関係機関と連携をしながら新規就農者の経営安定に向けて支援を行っていく。



【面談で今年の成果と課題を説明する新規就農者】

(園芸産地支援第一係・矢島隼人)

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■宿儺かぼちゃ 飛騨美濃特産名人認証式

宿儺かぼちゃ研究会会長の若林定夫氏が「かぼちゃ」の飛騨美濃特産名人に認定された。岐阜県は地域の気候・風土を生かして全国に誇れる銘柄産地・産品づくりを推進しているが、これを地域で支えている優れた生産者を「飛騨美濃特産名人」として認定し、産地・産品の一層の推進を図っている。名人の認証は1988年に始まり、今回の認定を含めて182人が認定されている。

若林氏は宿儺かぼちゃ研究会設立当初から会長として「宿儺かぼちゃ」の選抜、生産者の育成、栽培地域拡大に奔走し、今では全国で知られる地域ブランドに育てあげた。

農業普及課も研究会と連携し良質な宿儺かぼちゃ栽培方法や、病虫害防除指導などの支援を行い、共に産地育成を行ってきた。奇しくも研究会設立20周年を迎える年に特産名人に認定され、これを機に宿儺かぼちゃ産地の更なる発展を願う。



【授与式でも宿儺かぼちゃの魅力を語る】

(地域支援第一係・野田佳宏)